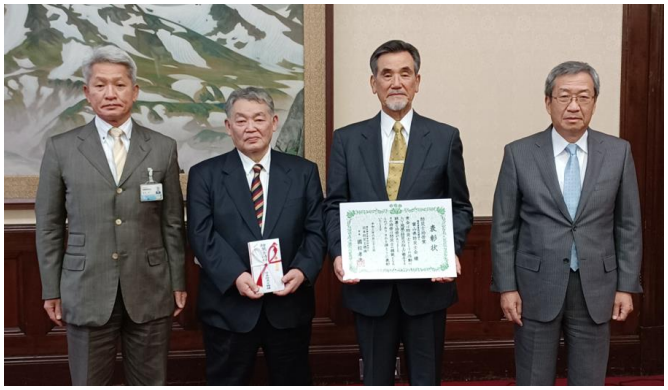
特定非営利活動法人
富山県防災士会 会報
（ NPO 法人日本防災士会・富山県支部 ）

第 32 号
令和 4 年 3 月 1 日
発　行　富山県防災士会
連絡先　090-3760-3702
（事務局長：上田）

日本防災士機構が富山県防災士会を防災士功労賞で表彰

令和 3 年 11 月 18 日、富山県庁特別室において日本防災士機構の表彰式が執り行われた。



（左から利川局長，佐伯理事長，小杉顧問，原理事長）

日本防災士機構から原理事長、記野企画推進室長が来県。利川危機管理局長以下関係者、報道陣が見守る中、冒頭、原理事長よりコロナ禍で受賞者のもとへ機構が訪問表彰しているとのこと。今年は全国で個人２人、団体６組織の表彰になったとのこと。この度の表彰会場を準備いただいた富山県に感謝の意を伝え、富山県防災士会のこれまでの功績を讃えた。引き続き、表彰状の授与が行われ、小杉顧問（前理事長）が賞状、佐伯理事長が副賞を受けた。次に利川危機管理局長が富山県初となるこの度の防災士功労賞の受賞を祝福するとともに、これからも県民の防災力向上のため尽力してほしいと祝辞をのべた。この祝辞に対して佐伯理事長が、受賞へのお礼と喜びの言葉をのべ、この受賞を糧に防災士会としてさらなる県民への貢献を誓った。

リアル＆リモートで「女性防災士の集い」開催

令和 3 年 11 月 28 日、サンシップ富山にて第 8 回富山県女性防災士の集いを開催しました。

今回は、Zoom で会場とリモート参加者をつなぐハイブリッド形式での開催にチャレンジしました。一昨年は台風 19 号やコロナ感染拡大もあり、実際にこうして集まるのは２年ぶり。県内の女性防災士 268 人にハガキで案内したところ、会場には 37 名、リモート参加者 14 名、合計 51 名での研修となりました。今回のテーマは「女性の視点を生かすためには」として、第 1 部では「赤ちゃんを守る防災ハンドブック～飛騨市の取組み～」について松原防災士が講演。引続き「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」について大屋防災士が講演。 第 2 部のグループトークでは、災害弱者の立場になって「大変なときだからこそ、我慢ではなく、優しく見守れるような避難所運営」を皆さんと一緒に考えてみました。グループ発表では、避難所運営や行政への要望など、女性らしい視点で課題をとらえ、改善するにはどう行動するかといった建設的な提案が多く聞かれました。

詳細は、防災かぁ～ちゃん富山の HP を参照ください。

令和 3 年度 北信越支部連絡協議会と富山県防災士会の研修会を合同開催

令和３年 12 月 11 日サンシップにおいて北信越支部連絡協議会と富山県防災士会の研修会を合同で開催した。

今年度は同協議会幹事を富山県支部が担っていることから例年富山県防災士会が開催する研修会と合わせて同日開催となった。

（別府 副理事長）

（橋本 茂 事務総長）

Zoom で会場とリモート参加者をつなぐハイブリット開催。会場には日本防災士会より別府副理事長、日本防災士機構からは橋本事務総長をお迎えし、４つの県支部 17 名＋関係者 6 名、リモート 36 名での研修となり、午後からの講演に富山県防災士会 9 名が加わった。来賓の別府副理事長からは、日本防災士会の近況報告や今後もこの協議会が防災士活動の見本となるよう頑張ってほしいとの激励があった。続いて橋本氏の講演では『「自助＋共助」は無限大』への挑戦～令和新時代の防災士の役割を考える～と題して、日本沈没の話題から第 4 次全国総合開発計画、SDGs、国の防災対策の変遷、防災士への期待とこれからの課題など、難しい話を分かりやすく説明された。

このあと、各支部間の情報交換会が行われ、昼食後は富山大学地球システム科学科教授の安村数明氏の講演「北陸地域における降雪と積雪について」～令和３年１月 北陸の豪雪を例にして～を聴講した。

（講演する安村数明教授）

～ 特 別 寄 稿 ～

「防災のためのインターネットの地図」

富山県防災士会参与　　大西 宏治　氏　（富山大学 人文学部 教授）

1959（昭和 34）年 9 月 26 日に東海地方は伊勢湾台風による大きな被害を受けました。濃尾平野の海岸部では高潮などで死者･行方不明者が約5000人に上りました。しかし、その３年前、1956（昭和 31）年に「木曽川流域濃尾平野水害地形分類図」が作成されていたのです。その地図に示された三角州の範囲と伊勢湾台風の浸水範囲がほぼ一致しました。このことを中部日本新聞（現在の中日新聞）では「地図は悪夢を知っていた」と見出しをつけて報道しました（図１）。

そして、水害地形分類図が防災対策に活用されていなかったことを「仏作って魂入れず」と新聞が批判しました。地形を詳細に分析した地図で災害を予測できることが皮肉な形で実証されました。以後は災害予測に関する地図づくりが行われるようになります。

図１　中部日本新聞記事

洪水災害に関しては、国土地理院は平野の地形を把握するために「土地条件図」や「治水地形分類図」など洪水災害想定に資する地図類を作成しています。また、国土交通省は浸水想定区域図を作成し、河川災害のハザードマップを作成するための基礎資料を提供しています。浸水想定区域図を作成するためには降雨の条件などを設定する必要があります。この条件の下で発生する洪水災害に対しては、洪水ハザードマップはかなり信頼度のある防災情報となっています。しかしながら、地球温暖化などの影響から、ゲリラ豪雨と呼ばれる短時間の激しい雨や、線状降水帯の形成による連続した降雨など、これまでに経験したことのない降雨パターンが生まれるようになりました。ハザードマップの想定とは異なる洪水災害が発生する可能性は否定できません。これまでと異なる想定で地図を作る必要が生じました。そこで現在では 1000 年に１度の大雨による災害を考えた浸水想定区域図（想定最大規模）を作成しています。国土交通省が運用する「ハザードマップポータルサイト」から確認することができます。

現在では災害に向き合うためのさまざまな地図類が準備され､インターネットで公開されています｡本稿では、それらを紹介し、地図から地域の災害について考える方法を示します。みなさんに知っておいていただきたい防災に活用できる地図のインターネットサイトは次のようなものがあります。

1. 地理院地図　https://maps.gsi.go.jp/
2. ハザードマップポータルサイト　https://disaportal.gsi.go.jp/
3. 今昔マップ on the web　https://ktgis.net/kjmapw/

どのインターネットサイトも迷うことなく利用でき、スマートフォンでの閲覧も想定しているため、パソコンでなくとも十分に活用できます。これ以外にも各市町村で作成したハザードマップは各市町村のホームページに掲載されています。それでは、それぞれの地図がどのようなものなのか見てみましょう。

１．地理院地図

国土地理院の地形図を電子的に作成するようになり、その基本図をインターネットで公開したものが地理院地図です。これに付随し、これまでに蓄積した航空写真や都市圏活断層図など災害想定に資する地図類を地理院地図からみることができます。例えば、土地条件図は地形のでき方がわかる地図で、旧河道や低地など洪水災害に脆弱だった土地がどこにあるのか探しやすい地図も表示することができます。富山市内をみると、神通川の旧河道がまちの真ん中にあることがわかります（図２）。

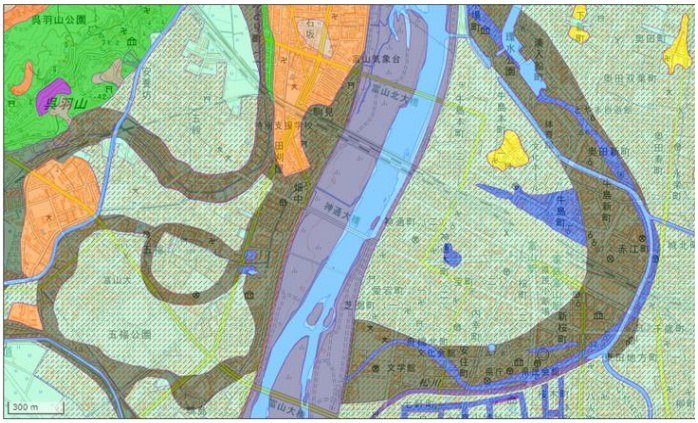


図２　富山市中心部の土地条件図（地理院地図）

さらに､標高を元にした立体図を作成することができ、土地の高低を意識し、洪水災害や高潮による被害を想定することができます。

その上最近では過去の災害を表す石碑などを「自然災害伝承碑」として地図上に掲載するようになりました。災害の教訓を地図上に示す試みです。富山県では庄川流域で発生した 1934（昭和 9）年の洪水を伝える石碑が掲載されています。自然災害伝承碑に登録するためには市町村が情報を整理して国土地理院に申請する必要があり

ます。会員のみなさまも日頃目にする自然災害伝承碑が地図に載っていないときは市町村へ積極的な登録申請の呼びかけをお願い致します（図３）。

図３　自然災害伝承碑の例（地理院地図）

２．ハザードマップポータルサイト

国土交通省の運用するハザードマップポータルサイトには「重ねるハザードマップ」と「わがまちハザードマップ」があります。わがまちハザードマップは各市町村の作成する洪水、地震等、さまざまな災害種のハザードマップのリンク集になっています。重ねるハザードマップは地理院地図上に浸水想定や高潮などさまざまな種類のハザード情報と避難所等を重ねあわせることができます。自治体の境界線とは関係なく、シームレスに扱うことのできる地図で、地域の災害の概観を知るには適した地図です。この地図の上に、さまざまな施設の緯度経度情報を整理して自ら作成したデータを重ねることもできます。

図４は高齢者施設と土砂災害警戒区域を重ねあわせたものです。このように自ら持つ情報と組み合わせてこそ、自分が必要とする災害想定マップを作ることができます。

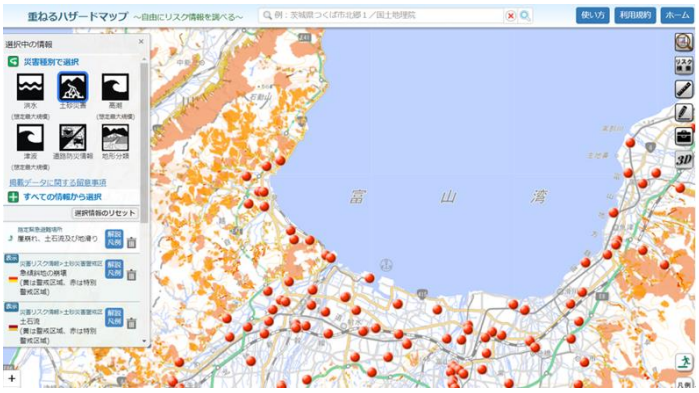


図４　高齢者施設と土砂災害（重ねるハザードマップ）

３．今昔マップ　on the web

国土地理院の発行する地形図の新旧を比較することができる地図サービスです。これは埼玉大学の谷謙二先生が個人で実施しているサービスで、自分の研究に必要な地域の新旧地形図を比較できるようにしています。富山県から石川県にかけては、金沢から魚津付近までが既に作られています。

農地や家屋の分布は高度経済成長期まで、おおむね土地条件に従っていました。田は低湿地に、住居は自然堤防内や微高地に置かれることが多かったです。古い地形図からは、土地条件を読み取ることができ、災害に対して脆弱な土地条件を持っている地域がどこなのかをある程度まで調べることができます。

富山新港付近の地形図を比較すると、射水平野はかつて低湿地な水田が広がっていたことがわかります。そこを富山新港の開発によって埋め立て、工場や住宅へと変わっていきました。洪水災害や高潮に脆弱だった地域が、港湾整備と工場誘致等で災害の少ない地域へと姿を変えたことが分かります。しかし、自然災害を完全に克服できたわけではなく、古い地形図が物語る地域の特徴を再認識して生活する必要があります。（図５）。

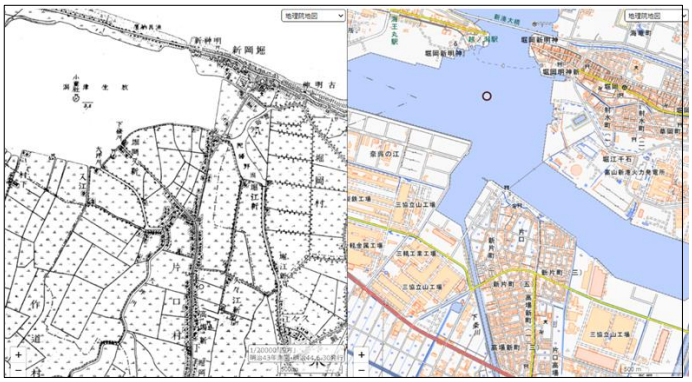


図５　新旧の地形図比較（富山新港）

このように災害想定に資するさまざまなインターネット上の地図があります。これらを活用しながら地域の防災の取り組みを考えてみてはどうでしょうか。災害を考えるとき、それをリアルに感じさせる仕組みがないと、多くの人は自分事として災害を考えてくれません。地図は目の前に起こる災害をリアルに感じさせる優れた仕組みです。

さらに地図を使って災害時の動きをシミュレーションする取り組みは防災訓練としても有益です。ハザードマップや土地条件を示す地図を見ながら、地域で起こりうる災害についてシナリオを考えながら、それぞれの地域の実情に合わせた防災訓練を計画することもできます。

防災士のみなさんには地図をみながら自分の活動する地域の災害について改めて考えてみてください。

大　西　宏　治　氏
（おおにし　こうじ）

防災士　中川 加津代（高岡市）

会　員 自己紹介

平成 30 年に私が住む地域で自主防災組織が結成されたのを機に、防災士になりました。高岡市の防災士は２０７人（令和３年４月末現在）、うち女性防災士は２８人です。２年前に比べれば３倍程に増えましたがまだまだ少ないというのが実情です。

万一、災害が起きたときには、老若男女、様々な方が避難所に集まり、たいへんな混乱が生じます。そんな状況では、女性防災士の細やかな視点がどうしても必要になります。女性活躍の場を広げるという意味からも、より多くの女性防災士が誕生するよう取り組んでいきます。自助･共助･公助の観点で何ができるのかを考えながら、女性防災士としての知見を広げ、地域防災の一助となれるよう、これからも努力していきます。

事業部　活動紹介

事業部は富山県を新川地区、富山地区、呉西地区の３地区に分け、担当役員を配して、防災訓練や避難所設営訓練などに応援要請があれば、防災士会の会員を中心に当該地域の非会員防災士や自主防災会とも連携を図りつつ、防災力向上のための支援や啓発活動に取り組んでいる。今年度はコロナ禍で各地区の防災訓練等が軒並み中止となったが、富山県と石川県が連携して行った原子力防災訓練の避難所開設訓練を主導的に支援したので、その一端を紹介する。

令和３年 11 月 23 日、石川県志賀町で震度６強の地震が発生し、志賀原子力発電所２号機において全面緊急事態発生。UPZ（30 km）圏内の氷見市碁石地区の住民が南砺市へ一時避難が必要となり、南砺市福野町文化創造センターへ避難するという想定で訓練を行った。

南砺市防災危機管理課の指示のもと富山県防災士会・南砺市防災こころえ隊が協力し避難所設営の訓練を実施致した。コロナ禍でもあり、事前受付、発熱者や濃厚接触者等の受付、要配慮者、健常者の受付を設定。それぞれの受け入れ場所にパーテーションでスペースを確保。段ボールベッドも準備して氷見市からの避難者を受入れた。

事前受付への誘導、避難者名簿の作成、コロナ感染症状のある方の分離等、一連の流れを確認した。訓練の後、防災講演を視聴し、コロナ禍における避難所開設と運営上の諸注意について再確認した。

富山市消防後援会表彰を受賞

令和３年 11 月９日ホテルグランテラス富山において、富山市消防後援会表彰式があり、富山県防災士会理事の宮本雅文さんが隊長を務める横内自主防災会が受賞された。主催の富山市消防後援会は、例年この時期に防火、防災、救急活動等に顕著な功績のあった個人、団体を表彰しており、今年は個人二人と３団体が表彰された。

（記念撮影：宮本雅文氏は前列中央）

宮本理事率いる横内自主防災会は、平成 24 年９月に結成されて以降、毎年定期的に地域住民の防火、防災訓練を実施しており、コロナ禍においても新型コロナウイルス感染防止対策を図りながら講演会や避難訓練等を積極的に実施されていることから、今回の受賞につながった。

表彰式を終えた宮本理事は、この受賞は横内町内住民の熱心な防災力向上への取り組みを評価いただいたもので、頂いた賞に恥じぬよう、これからも取り組みを継続していきたいと語った。

小型車両系建設機械運転資格の紹介

富山県防災士会の会員で林建設の林茂様から、小型車両系建設機械運転資格の情報を頂きました。

１月 20 日 NHK「所さん大変ですよ」の番組中でも紹介された長野県小布施町のお寺さんが立ち上げた「日本笑顔プロジェクト」の重機アミューズメントパーク。

指導に当たる若い指導員たちも普段は災害で被災した地域に入り、重機の運転士として復興支援に関わっている。運転資格を取得する費用は２万円程度で、２日間で取得できる。１日目の座学では、重機の取扱いだけでなく、被災地での作業に欠かせない知識や準備についても教えてくれる。２日目は、数種の重機を操縦して、身体に覚え込ませる感じだ。復興のためのガレキ処理には重機が必須アイテム。重機があっても動かす人が居なければ復興は進まない。そこに着目して始まったプロジェクト。ご興味のある方は、ＱＲコードからアクセス。

（重機講習会ー日本笑顔プロジェクト）

富山県防災士会 広報部では、皆様の活動情報をお待ちしています。連絡先：090-3760-3702（上田）